

◆ 第二回柳川市観光まちづくり推進委員会議事録

平成23年8月11日作成

◇ 日 時：平成23年8月9日(火) 14時00分から17時00分まで

◇ 場 所：柳川市民会館 第2会議室

時刻	項目	担当	内容
14:03	●会長挨拶	千会長	今日の委員会も実りのある会議にしたいと思います。皆さんの協力をお願いします。 早速、前回議事の確認をお願いします。
14:06	●前回議事の 確認	山田係長	※資料の第1回柳川市観光まちづくり推進委員会意見集約版に基づき報告。 ◆修正点等ご意見なし。
		千会長	前回の会議でもございましたように、実効性のある効果的な事業展開を図って行きたいとのご意見がございました。そのために観光施策の方向性を含めて検討していきたいといます。そこを踏まえて選択と集中を図って行きたいと考えています。その中で、たくさんの事業がございいますが事業を絞ってまずはこれに取り掛かって行くといった方がよいといったご意見がありました。また、資料として具体的な事業を戦略ごとに提出してほしい、各組織と柳川市との連携の具体的な取り組みについても提出してほしいとのご要望がございました。 各組織の事業の情報共有と時代の変化や競争が激しくなって行く中でそのような状況を踏まえて今後の柳川市のプロジェクトを実効性のあるものにするためにサンプリングとなるお話を聞かせていただきたいといます。 各組織から事業の報告をしていただき、その後柳川市のこれまでの事業の成果を振り返り評価していきます。ただし、十分な評価データはそろっておりませんが、皆様からご意見をいただきたいといます。取り組んでいるプロジェクトを説明し、もっと力を入れてやった方がよいまた、緊急的に行った方がよいなどの議論をいただきたいと考えています。

14:10	●議事(1) 九州・県戦略・事業計画及び市内団体の事業計画などの情報共有	九州運輸局 観光地域振興課 待鳥課長	<p>※九州運輸局資料に基づき説明。</p> <p>①九州における宿泊の動向 九州内での宿泊が42.7%、関東地方19.2%、近畿地方9.8%、中国地方4.4%であり、新幹線全線開業に伴い、関西中国地方が伸びる要素がある。</p> <p>②九州内の観光圏の取り組み(九州内で6観光圏) 広域的に地域で連携し、2泊3日以上滞在型観光が可能な取り組みに関する施策。</p> <p>③観光推進にあたっての課題 ・滞在力1日でも1時間でも長く。着地型観光。 ・観光地域づくりプラットフォーム。観光窓口の一本化。ワンストップ窓口として観光商品等を扱う。 ・自立、継続性が必要。</p> <p>④観光地域づくり施策メニュー一覧 関連部署で観光まちづくりに関する施策メニューがある。</p>
		福岡県国際 経済観光課 江崎企画幹	<p>※福岡県の観光振興資料に基づき説明</p> <p>①九州7県で出資している九州観光推進機構と連携して事業を展開している。 ・インバウンド(韓国・中国・台湾)、国内大都市圏(東京・関西圏)のセールスは機構で展開。 ・特に海外を想定した場合は福岡県では弱い部分もあるので、九州ブランドでセールスして、まずは九州においで頂く。それから福岡へ。</p> <p>②福岡県の取り組み ・PRと観光地づくりの2本の柱で取り組んでいる。</p> <p>③地域連携による集客力の強化 ・九州雛祭りの取り組みがある。柳川市も参加。 ・春秋にエージェンต์向けの商品説明会に参加。</p> <p>④産業観光の推進</p> <p>⑤九州新幹線全線開通観光キャンペーン ・新たにできた新幹線の3駅県南を中心に関西・中国地方でキャンペーンを実施。</p> <p>⑥修学旅行誘致 ・産業観光施設や九州国立博物館や平和記念館を活用した誘致を展開。</p>

		<p>⑦クルーズ船の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国からクルーズ船が福岡に入りますので、県内大宰府や福岡市だけではなく、柳川市など他の地域にも足を運んでいただくような取り組みを実施。 <p>⑧ボランティアガイドの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客の思い出に残るガイドを育成。 <p>⑨情報発信</p>
	福岡観光プロモーション協議会 本田部長	<p>※福岡観光プロモーション協議会資料に基づき説明協議会は、福岡観光コンベンションビューローが事務局で、柳川市・福岡市・大宰府観光協会・久留米市国際観光コンベンション協会・福岡市内の観光施設やホテルで構成しています。</p> <p>①修学旅行の誘致</p> <p>ビューローには旅行会社から7名出向しており、そのメンバーを中心にフル活動し、修学旅行のキーパーソンに協議会で誘致活動を展開。</p> <p>今年は、震災の影響で関東から九州に入ってきている。</p> <p>②インバウンド関係</p> <p>中国・韓国・台湾でプロモーションを実施。福岡を中心に九州北部エリアにかなりきている。</p> <p>震災以降も韓国からもどってきている。韓国は大きなマーケットであり、今年も説明会に参加。</p> <p>まずは福岡に来ていただき、柳川市や久留米に回遊してもらいその後に他の九州を回っていただくことを目指している。</p> <p>③情報発信</p> <p>旅行会社にダイレクトメールを発信。1,000名に発信。</p>
	千会長	質問はなにかございますか。
	待鳥委員	九州運輸局としては、国内観光だけではなくインバウンドにも力を入れています。メディアやエージェントの招聘事業を行っています。柳川市も行程に入っているものもあると思います。

		千会長	今ご存知のように国内観光客も人口も減少していることを考えた場合に交流人口を増やすことが考えられます。国内だけではなくインバウンドにも力を入れていく必要があります。運輸局や県などとの連携がキーワードではないかと思えます。観光圏やプラットフォームを担う組織をつくる。ターゲットとしては修学旅行も視野に入れていく必要があります。
		本田委員	修学旅行の誘致の際に岡山あたりで出てきた意見としては九州に行きたいといった意見は多かったです。九州新幹線全線開業しましたが、8両編成なので、団体枠をとるのは厳しい状況です。修学旅行としては1団体200名以上になりますので、1回では送客できない。従って、博多駅で降りてバスで移動するといった行程が主流であります。そのため、柳川市にも希望がもてます。中学は平和学習がメインなのでそこを踏まえる必要はあります。
		刈茅副会長	観光圏のエリア設定はどのような基準で選定していますか。
		待鳥委員	整備計画を提出していただき、第三者委員会で承認する形となります。ほとんどが、民間主導での話になります。民間主導で行った方が自立・継続性がでてくると考えられます。民間主導で地道に展開していき、収益基盤をしっかりと築いていく観光まちづくりを展開していく。観光圏整備法に基づいて平成20年施行の法律ですが、21年の事業仕分で平成23年度予算から観光地域づくりプラットフォーム支援事業に様変わりしています。柳川市もプラットフォームといった取り組みと一緒に観光関係者や商工・農業・漁業関係者が連携していければということで資料提供をさせていただきました。このような取り組みが柳川では必要ではないかと思いました。地域資源を生かして皆さんが連携し点を線で結び面にしていくことが大事だと感じています。
		千会長	県の説明の中で、モデル事業がありました。それをそのまま移行することは可能でしょうか。 (可能です。)

		千会長	次に、九州観光推進機構の事業計画の説明をお願いします。
		大江委員	<p>第3次観光戦略に基づいて展開しておりますが、今年は震災がございましたので、海外の風評被害の対応を重視して実施をしています。</p> <p>国内は東日本から西日本にシフトしており、修学旅行も300校が関東から九州に振り替えになっています。国内については、旅行会社の取り扱いも前年度を上待っているのも九州だけです。</p> <p>海外の落ち込みをいかに回復させるかが重要です。4月から6月までで前年比約4倍の招聘事業を実施しています。風評被害対策として、マスコミやエージェントをメインに、国別ではタイ・シンガポール、中国などをターゲットに展開しており、韓国ではブロガーを招聘しました。その結果、レールパスがほぼ前年並みに戻ってきている状況ですが、経費の面では厳しいとの声も聞かれます。ただ、数字だけを見ると8月の数字は前年並みに戻ると期待しています。中国の春秋航空も茨城から九州佐賀にシフトしているかと検討もしています。九州に対する期待もあります。いかに効果的に発信していくかが重要です。</p> <p>国内プロモーションの地域に関しては、関東をメイン展開していましたが、今後は関西が一番重要なマーケットになってきます。</p> <p>鹿児島中央駅の問い合わせが4月から6月までで前年比170%と鹿児島に人が流れています。</p> <p>新幹線の縦軸はできたが横軸が九州にとっての大きな課題だととらえています。</p> <p>メディアにとって九州は元気があるように見える。九州の魅力をメディアを活用し発信してもらうかが重要です。</p> <p>韓国の済州島はウォーキングに対する需要が増えており、九州にもウォーキングできるところがたくさんありますので、その部分をメディアに発信してもらおう。8月末には九州観光推進機構と韓国済州島とで</p>

	大江委員	<p>連携調印を行う予定です。</p> <p>新しい部分ではHISと春秋航空とで長崎佐賀あたりの動きも出てくるのではないかと思います。</p>
	刈茅副会長	九州観光推進機構と先ほどの観光圏との関係はどのようになっていきますか。
	待鳥委員	<p>直接関係はございませんが、観光圏整備の中には、外国人観光客の受け皿となる整備も含まれています。また、観光圏の中には外国語対応の事業展開も進められています。</p>
	千会長	<p>マーケットが広がって関西からも多くのお客様がきているので、質を上げないといけないといったことやメディア戦略の重要性を話していただきました。</p> <p>今までの話を念頭に置いていただき、柳川市の取り組みについての説明をお願いします。</p>
	山田係長	<p>※柳川市観光課の資料に基づき説明。</p> <p>市としては、平成17年3月に総合計画を策定し38本の施策を立ち上げておりまして、その内の観光施策として水郷まち歩き観光の振興を取り組んでいくこととしています。</p> <p>①地域資源データベース化・プロモーション媒体製作事業 ～柳川の宝もの語り探し～</p> <p>合併後、たくさんの資源がありますが一元管理できていないといった課題があり、資源を写真と物語化して一元管理していく。</p> <p>②観光振興計画フォローアップ推進事業</p> <p>本委員会の設置と市民向けのフォーラムの展開、最後のこの後報告していただきます、観光振興プロジェクトチームの運営を行っている。</p> <p>③産学民官連携事業</p> <p>九州産業大学との連携で柳川をテーマに様々な取り組みを実施している。</p> <p>④ボランティアガイド事業</p> <p>⑤プロモーション事業</p> <p>九州新幹線全線開業に伴い、筑後船小屋駅への近接性を発信していく。今月末には鹿児島へのトップセールスを予定。</p>

	山田係長	⑥国際観光事業 以上大きく6本の事業を展開していく予定。
	目野委員	※柳川市観光振興プロジェクトチーム資料に基づき説明。 平成21年7月に立上。観光協会や商工会議所、商工会、青年会議所など30代40代の若手のメンバー12人活動。 キーワードとして、市民が行う観光振興とは何かを考えておりました、その中で、「近き者喜び遠きもの来たる」ということで、市民が楽しむことが大事だということをモットーに展開している。 昨年度事業として ①「どんこピア」 どんこ舟を係留したままでビアガーデンを実験的に実施しました。 ②「菊の節句」「愛嬌挨拶」 桃の節句は有名ですが、昨年度から菊の節句に焦点を当てたイベントを展開しています。 今年度事業 ①菊の節句②どんこジャズ を予定しております。
	渡邊会長	※柳川市観光協会資料に基づき説明 観光協会が観光基本計画を策定しておりますので、それに沿って展開しております。 ①組織強化の取り組みを展開 ②掘割などの環境美化や植栽事業を展開 ③受け入れ態勢の整備を展開 ④メディアへの情報発信 ⑤白秋祭水上パレードや掘割探検隊を実施
	新谷（協議会事務局）	※柳川観光活性化協議会資料に基づき説明 観光活性化協議会は平成14年に柳川市、観光協会、会議所の3団体で構成しています。 ①観光従事者の研修 ②伝統的建造物の有効活用 ③ご当地検定事業創出に向けた調査研究 ④観光情報発信事業に関する調査研究

		横山委員	<p>※柳川ブランド推進協議会資料に基づき説明</p> <p>全国的にブランド化戦略が進んでおりますが、本市でも平成21年柳川市地域ブランド戦略構想に基づき展開をしてる。</p> <p>①柳川らしいブランド商品づくり</p> <p>特産品づくりアドバイザー派遣や特産品開発事業等を展開しております。</p> <p>②柳川の固有資源を活用した商品の認定品づくり</p> <p>ブランドロゴ「よかばんもー柳川」の活用やブランド認定をしている。</p> <p>③効果的情報発信と販促活動</p> <p>独自のホームページを立ち上げ情報を発信したり、柳川でしかできない体験モニターツアーを定期的実施したり、新たな柳川の魅力を発信している。</p>
		千会長	<p>柳川市の取り組みを説明していただきましたが、何かございますか。</p>
		刈茅副会長	<p>事務局でプロジェクトの体系と活動計画を整理している資料がございますので、それを説明してもらい、議論をしていただければと思います。</p>
		津留	<p>※計画に掲げる短期事業の振り返り資料(資料3)を説明</p> <p>観光振興計画上の戦略1から7までの基本方針毎に各事業を整理させていただいております。</p> <p>①戦略1:柳川ブランドの構築</p> <p>個別事業として6本展開しており、戦略全体の幅が広がった事業展開ができた。</p> <p>②戦略2:食の魅力づくり</p> <p>柳川の食材を使った加工品の開発が展開できた。</p> <p>③戦略3:魅力的な地域づくり</p> <p>柳川でしか体験できない体験メニューを開発し定期的実施している。</p> <p>④戦略4:多様な集客資源の融合</p> <p>個別事業として13本展開でき、柳川市の昔からある資源や歴史を活用した事業が展開できている。</p> <p>⑤戦略5:地域力向上</p>

		<p>個別事業として14本展開できており、その中でも掘割を活用した事業が多くみられ、いかに柳川にとって掘割が重要であるかが分かる。</p> <p>⑥戦略6:観光情報発信・受信の充実</p> <p>個別事業として8本展開でき、四季折々の情報発信はしておりますが、まだまだ新しい情報の発信については弱かったと考えられます。</p> <p>⑦戦略7:国際観光の推進</p> <p>情報発信ツールとして、4カ国語DVDやリーフレットの作成を実施。また、関係団体と連携しマスコミの招聘事業が展開できたことは今後の外国人誘致につながる。</p>
	千会長	<p>説明事業の内容から優先順位や戦略を選択と集中していく必要があります。今回はそこまでは厳しいと思います。感想でも結構ですので、それを踏まえて3回目の委員会の際に再度議論を行っていきたいと考えています。</p> <p>それでは、今までの説明を踏まえて何かございますか。</p>
	大江委員	定期的なプレスリリースは行っていますか。
	古賀課長	行政がかかわっている事業については、毎月1回記者会見を行っています。その際に情報を提供させていただいております。
	大江委員	<p>我々も同じですが、大都市圏と海外からの誘客が主な目的ですが、それをやっていることを知ってもらうことが大事であります。機構として何をしているのか分かっていただけない場合があります。新聞やメディアで取り上げていただくことで機構の役割や目的を知っていただくことが大事です。</p> <p>リリースは頻繁に行っています。記者の視点でどうやったら取り上げていただけるのかを考えて行っています。市民に対する発信でもあります。市民の方も現在何があるのかが分かっていないということもあるので、新聞で取り上げてもらうことで様々な動きを知ることができます。</p>
	古賀課長	ありがとうございます。私どもも新聞社やテレビ局

			<p>といったメディアに情報を提供させていただいておりますが、毎年同じような情報しか流せていませんので、記者からは今年は何か新しいことがありますかといったことを聞かれます。</p>
		大江委員	<p>四季的なものはいつも流しておられますが、新しい観点での情報発信を行っていくことが大事だと思います。</p>
		古賀課長	<p>メディアの皆さんは、「白秋の故郷水郷柳川」という名前だけをご存知ですので、メディアの方にも柳川市は認知度として高く、また柳川ですかといったことを言われることもあります。やはり新しいことを求めていらっしゃることは十分理解しております。</p>
		本田委員	<p>今までの会議の内容は総論だと思います。いかに柳川に誘客するのか情報を発信していく重要性は分かりましたが、今後は各論として、これまでやってきた事業の評価と事業をそのまま実施してよいかの検討、その中での優先順位がキーワードではないかと思います。</p> <p>各論を協議する中で、本日の委員会で各団体の事業内容の共有をさせていただきましたが、これからはそれを踏まえてもうひとつ具体的な各論の議論が必要ではないでしょうか。</p>
		古賀課長	<p>今おっしゃった通りだと思っております。もちろん、すべての事業をすぐにやめるといったことではございませんが、事業の中でも特にこの事業に力を入れて取り組むべきであるといった事業がありましたら一つ二つ提案いただければと思います。また、現在実施している事業だけではなく、現在の時代背景や観光の潮流等を踏まえた新しい柳川の魅力を発信できる事業を提案いただければと思います。国内観光では着地型観光が重要として高まっていますが、成熟された観光客のニーズにこたえるためにはどのような戦略で進めていった方がよいのかのアドバイスやインバウンドの戦略的な部分をご教示いただければと思います。</p>

		待鳥委員	<p>体験モニターツアーを実施されていますが、利用者のニーズやどのようなことを欲しているのか。また、ブランド認定品ではどのような商品がどのような年代に売れているのかといったマーケティングは行っているのか。ニーズにあったモニター商品の開発を行っていますか。</p> <p>例えば、夜の川下りですが夜お客さんが入れれば宿泊施設は時間的に夕食の提供ができないのであれば、翌日の朝昼の食事を提供するといった工夫も考えられるのではないのでしょうか。</p> <p>課題を解決するためにもマーケティングが必要であり、モニタリングも同様です。</p> <p>集中するにもマーケティング、モニタリングは必要であり、どこに力を入れたらよいか分かります。</p>
		手嶋委員	<p>戦略6の情報発信についてですが、ツイッターやフェイスブックといったソーシャルメディアの活用がないと感じました。個人的な話で恐縮ですが、今私は鳥取に行きたくて仕方がありません。なぜかという、フェイスブックで繋がっている方が鳥取在住でして、その方から鳥取の魅力的な情報を流してもらいやり取りをしている内に、あったことはないですが、身近に感じてその人が住んでいる場所に行ってみたいなと思っているのです。</p> <p>震災以降、人と人との絆と言われていまして、誰でもが関われるメディアで小さいメディアですが、とても濃い世界で繋がっているメディアであります。小さなメディアですが拡散も広く、瞬時に情報が流れていきます。</p> <p>観光と市民の距離が縮まらないとの話がありましたが、市民一人ひとりがメディアの媒体であります。マスメディアへの提供も必要ですが、ソーシャルメディアも重要であり、市民の方に柳川の身近な情報を発信してもらうことも大事ではないでしょうか。</p>
		大江委員	<p>フェイスブックやツイッターを実施している自治体もあります。メディア戦略で、誰もやっていないことをやることで記事になります。</p>

	手嶋委員	マスメディアとソーシャルメディアをうまく使っている戦略だと思います。
	待鳥委員	観光振興プロジェクトチームの取り組みは面白いと思いました。
	千会長	たくさんの事業が実施されていますが、力が分散している印象があります。その中で、特に、この委員会が集中的に力を入れるべき事業を検討しているところですが、プラットフォームの話もありましたが、市内の様々な組織が関わって、ダブっている内容もあります。力の分散ではなくもっと効率的にコーディネートできる仕組みも必要ではないのかと印象を受けました。
	江崎委員	<p>様々な事業が各組織で展開されていますが、ダブっている事業や類似事業などの調整は行っていますか。この委員会で類似事業を整理するといった意見も提示するのもいいのではないかと思います。</p> <p>事業ごとに違う組織が立ち上がっているが、その母体となっているのは、結局、市、会議所、観光協会であるので、うまく事業や組織を整理、集約して力を発揮できるのではないかと感じます。</p>
	本田委員	かなり事業がたくさん実施されています。一つ一つを見るといい事をやっておられますが、内部での情報発信で終わっている感じがします。もっと広い範囲での情報発信を行っていく必要があると思います。情報発信をどのようなツールで行っていくか、もう一つはメディアをどう動かしていくかだと思います。これだけしっかりやっけていらっしゃるので着地させることが重要です。一生懸命実施されているがこの事業はここで情報発信しようといった具体的な情報発信が必要だと思います。そこが一番重要だと思いますが、その部分が抜けている感じがします。
	渡邊委員	類似事業がたくさんあるとは感じています。集約できないかとは感じています。集約することでもっと密にあるとは思っています。

		立花委員	市内にもいくつかの組織がありますが、思いは同じでも別々の事をやっています。もちろん各組織の思いがある事業もあるべきだと思いますが、これだけ一緒になって実施して行こうといったものを一つでいいので決めないといけないと思います。共通の行動目的を示していくことが重要だと思います。
		大江委員	福岡市や久留米が着地型のパンフレットを作成していますが、現在、柳川市でやっている着地型の事業をすべて一つのパンフレットに落とし込んで作成することも一つのだと思います。事業主体は別として観光客が参加できるいろんなイベントをまとめて作成できたらいいと思います。
		荒巻委員	<p>市外の方々からたくさんご意見をいただいたことは良かったと思います。</p> <p>説明の中で、類似事業もございましたが、事業を実施して行く上で評価が求められます。事業評価としては、優良可といった評価がございますが、優、もしくはそれ以上を目指して実施していくことが大事だと思います。</p> <p>それでまとめに関してですが、第三者の意見としてもっと客観的なご意見をいただくことは重要だと思います。自己評価も大事ですが客観的な視点でのご意見をいただければと思います。また、評価する際はできるだけ数字で示していただければと思います。</p>
		本田委員	どんこビアはすごくいい企画だと思います。それを情報発信していく。現在のターゲットは市民だと思いますが、それを広く観光客にもPRし、宿泊に繋がっていくことが観光だと思います。例えば、JTBや西鉄旅行に売り込んでいくことも考えられます。福岡から電車で45分と言った立地的なものを含めてビアガーデンを柳川ではどんこ舟で楽しめるといった売り方も考えられます。
		立花委員	地元の方が楽しくないと観光客は来ません。さげもんや白秋祭水上パレードも地元の方が楽しんでい

			ただでそれを見て観光客が訪れます。自分達が楽しければ、他の人にも声を掛けられます。
		手嶋委員	<p>地元の方が楽しんで、その楽しさをフェイスブックやツイッターなどで発信できたら心が伝わってくると思います。見た人が行ってみようかなと思います。</p> <p>フェイスブック講座を市民の方々に実施していくことも面白いと思います。</p>
		本田委員	<p>プロジェクトチームの方々が企画されたことを行政が情報発信をしていくといったモチやモチやといった部分の動きができるかと相乗効果が表れると思います。観光は地元の方々が楽しまないと観光客は来ませんので、それが中心になってきていると感じています。</p>
		渡邊委員	<p>さげもんを始めた時も同じで、自分たちも楽しんでやっていた。現在は、義務的にやっているような感じがします。もう少し楽しんでやりたいですが、何かに制約されているような感じがします。でも、自分達が楽しむことがお客さんに対するおもてなしではないかと思います。</p>
		荒巻委員	<p>先程から楽しむイベントの話が出ていましたが、山形県でもサクランボの種飛ばしのイベントもありますから、楽しめるものを企画することもやはり必要だと思います。</p>
		千会長	<p>たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。</p> <p>次回の会議の日程はいつですか。</p>
		山田	<p>次回は10月5日の午後2時でお願いします。</p> <p>また、4回目の会議を同じく10月下旬を予定しています。</p>
		千会長	<p>それでは、第2回目の委員会を終了させていただきます。</p>